平成30年度 学校法人　産業技術学園　北海道メディカル・スポーツ専門学校　学校関係者評価委員会　評価結果および改善方策

学校関係者評価員会実施日　：　平成30年7月14日　　17時～19時

評価委員　：（順不同　委員長◎）　◎福良均　鉢直人　祓川勝文　大岩則子　根占克哉　田畑亜由美　日光大輔

平成30年度自己点検自己評価（平成29年4月1日～平成30年3月31日）による

【理念・運営目標】	北海道メディカル・スポーツ専門学校は、職業教育を行う高等教育機関として、職業人教育を通じて社会に貢献するミッションを持ち、3つの建学の理念「実学教育」「人間教育」「国際教育」を通じ業界に直結した職業人の育成をするとともに、４つの信頼「学生・保護者からの信頼」「高等学校からの信頼」「業界からの信頼」「地域からの信頼」を得ることを目指している。
【組織目的】	北海道メディカル・スポーツ専門学校は、トップアスリート（プロ、アマ問わず世界・日本で頂点を目指すアスリート）の集まる教育環境のもと、スポーツを支える人材養成（トレーナー・治療家）し、北海道内の健康社会の実現に貢献する。
【運営方針】	1. インドアスタジアム、アリーナ等の教育環境を最大限に活かした独自のスポーツ教育を推し進める。 2. グループ姉妹校の東京スポーツ・レクリエーション専門学校、東京メディカル・スポーツ専門学校連携を強化し、トレーナー教育の充実を図る。 3. ポスト2020年を意識した教育を展開するための、スポーツ学科の中に新専攻（パラスポーツ、スポーツビジネス等）設置の準備をする。

項目	関係資料コンテンツ	点検項目	自己点検	重点目標	H29年度学校関係者評価（平均） 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	H30年度（H29）自己評価 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	H30年度学校関係者評価（平均） 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	学校関係者評価委員よりの御意見	今後の改善方策
1　教育理念・目的・育成人材像	教育指導要領 入学案内 事業計画	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	スポーツを支える人材養成（トレーナー、治療家）をブレることなく推し進めている。 平成29年度のアスレティックトレーナーの合格実績、柔道整復師、はり師、きゅう師の合格率は道内で一番であることがその証明でもある。	アスリート（プロ、アマ、中、高、大部活）の集まる環境をより整備し、アスリートとともににスポーツを学べる教育システムを強化。 連携チームも増やす（レバンガ北海道とH30年４月教育連携を締結）。	3.0	3	3.0	合格率の高さ良い。 ノルディーア北海道ではホームゲームの運営等においてスポーツを学べる教育システムの一環として更なる環境整備に努めていきたい。	アスリート（プロ、アマ、中、高、大部活）の集まる環境をより整備し、アスリートとともににスポーツを学べる教育システムの質向上と、柔道整復師、鍼灸師教育の臨床実習の教育プログラムの構築。
		1-2 学校の特色は何か	恵庭にだから実現出来る教育環境のもと（道内唯一のインドアスタジアムやアリーナがある）、五輪・世界大会出場経験のあるアスリートが集まる、各種目でトップを目指すチームが集まる ことを活かした教育を学生に提供、スポーツ現実をアスリート・チームから学ぶことで、実践的なトレーナー教育を実現している。		3.0	3	3.0		
		1-3 学校の将来構想を抱いているか	ポスト2020のスポーツ界を視野に入れた人材養成を、新専攻や新学校種の構想も含めて実現出来るようにする。		2.6	3	3.0		
2　学校運営	事業計画	2-4 運営方針は定められているか	滋慶学園グループ共通の5カ年計画に基づき、明確に定めている。運営方針の実現のため、月2回の運営会議、学校全体会議及び週1回の学科会議、部署会議を通じて、問題点や課題を明らかにし、速やかに解決策を出し、実行している。 新学校種の検討を含めた将来構想のもと、新たな長期計画を立ている。	新専攻開発（スポーツビジネス　パラスポーツ　eスポーツに関わる人材養成）。	3.0	3	3.0	更なる準備をして戴きたい。	スポーツ×異分野教育の構築。 新学校種開校の検討。
		2-5 事業計画は定められているか	中期的学校構想のもと、事業計画を作成し、毎年の教職員研修で方針・計画を発表している。また、事業計画を教職員が自立的に計画・提案し全員で共有する。その上で職場運営が実行に移されていく。		3.0	3	3.0		
	事業計画	2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	運営組織や意思決定に関しては、重要事項の優先順位と対応する機関が明確である。 産業技術学園3校の運営会議を受け、本校3学科の運営会議にて、目標確認と実行方針を速やかに計画立てるなど志向性の高い組織運営が行われており、問題点を早期に発見し、対策を立て、実行するプロセスを構築している。 組織の全体像は、事業計画書の組織図に示されている。		2.6	3	3.0		
	就業規則	2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	採用計画、人材育成の研修は、システムとして確立され、機能している。　採用は、学園本部が中心となり、求人、採用試験を実施している。採用にあたっては、採用基準の基、厳正に実施している。 また、学校・チーム・個人の目標を明確に学校運営にあたり、その成果に対して人事考課をしている。常に、職場満足度の高い職場環境創りを意識している。	【働き方改革】に応じた勤務体制の整備を図る。	2.4	2	2.8		
	事業計画	2-8 意思決定システムは確立されているか	明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間通じ力を入れている。各種の研修（教職員・講師）、会議（運営会議・学科会議・課別会議等）で周知し、運営上、生じる課題についても早めに解決できるように心がけている。		3.0	3	3.0		
	AS400 サイボウズシステム 口頭説明	2-9　情報システム化等による業務の効率化が図られているか	業務のマニュアル化とシステム化が推進され、学校に関する重要データ（学生・卒業生・教職員・広報・財務など）はAS400で一元管理されている。また、教職員個人の情報交換もサイボーズによる学内コミュニケーションシステムや掲示板、稟議、出張、外勤システム等を構築し管理している。		3.0	3	3.0		

項目	関係資料コンテンツ	点検項目	自己点検	重点目標	H29年度学校関係者評価（平均） 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	H30年度（H29）自己評価 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	H30年度学校関係者評価（平均） 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	学校関係者評価委員よりの御意見	今後の改善方策
3 教育活動	教育指導要領	3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	業界の人材ニーズレベルと、学科の教育期間鑑み、到達可能なレベルを明確に定めて、教科毎の終講時試験、進級判定会議・卒業判定会議で到達レベルの評価を確認している。業界ニーズを常に把握するため、企業連携強化と、更に行政との係わりをも強化してゆく。	アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、 ディプロマポリシーの明確化を図り、利害関係者への周知を図る。	2.6	3	3.0	資格取得一覧表を拝見し入学時に持っていた学生のビジョンを具現化するために、教育活動の一環としての実習面においてスポーツの現場での経験値を向上する為に更に積極的に関与したいと思います。	ポスト2020年を見据えたスポーツ教育の構築、新たなスポーツ業種に対応出来る教育システムを、今の段階で創り上げる（新学校種開校検討含む）。
	教育指導要領	3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	本校の組織目的を柱にし、その学科で取得する資格レベルに応じて入学前登校時や入学前教育を通じて説明している。また業界の人材ニーズに応える教育目標は、学生便覧に明確に文章化されており、学生にも周知している。		3.0	3	3.0		
	教育指導要領	3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか	カリキュラムは「適性を見つけ目的意識を育てるプログラム」、「プロに必要な態度・思考・倫理とそれらの基本となる知識を身につけるプログラム」、「専門的な技術・知識を身につけるプログラム」の3種類により体系的に構成されている。また、定められた卒業時のゴール（目標）に向けて、科目間の連携を図るようカリキュラムを作成している。		3.0	3	3.0		
	教育指導要領	3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	各科目は科目間の連携を図るよう、かつ、学生の習熟度に適合するようカリキュラムの中に適正な位置づけをしている。また、教育課程編成委員会からのご意見も反映し、常に見直しを図り、申請が教育課程の変更は、理事会の承認を得て、開講している。		2.9	3	3.0		
	教育指導要領	3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか	キャリア教育については、その取組を入学前教育時にキャリアの発見を確認し目標に対してのキャリア形成、卒業後のキャリア開発までの流れを教育ローマップに示されたマイルストーンを確認し卒業までに目指す資格、求められるキャリアを明確にしている。新規の休学生の減少に繋がった。（7名→3名）		2.4	2	2.5		
	口頭説明	3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか	前後期に学生アンケートを通じて授業・学校生活などから学生の声を集約し専任教員にフィードバックし、アクティブラーニングを取り入れる準備を整えた。次年度は公開授業を通じ教員自ら授業改善の気付きを促し具体的な手法の改善に着手していく。		2.6	3	3.0		
	教育指導要領	3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	業界で経験を積んだ卒業生の教員採用や、専任教員と第一線で活躍する講師との交流で常に高い水準で要件を備えた教員確保に努めている。		2.9	3	3.0		
	キャリアサポートハンドブック	3-17 教員の専門性を向上させる研修を行っているか	会議・研修を通じて教授力の向上や、公開授業＋学習促進型コーチングにより担任力強化を図った。また年2回の職業実践専門課程認定の教員研修会への参加や各業界で行われている学会等に積極的に参加を促し教員の資質向上に努めた。		2.9	3	3.0		
	教育指導要領	3-18 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	成績評価ついては、講義毎の終講時試験や進級卒業判定会議にて学則、細則に定める教務規定に則り適正に評価している。入学前履修や取得単位に関する互換と相互性を学則内容に照らし審議運営を行っている。		3.0	3	3.0		
	資格取得一覧表	3-19 資格取得の指導体制はあるか	.医療国家資格とスポーツ資格取得可能なカリキュラムの確立として、効率的に学べるように整備した結果、医療系資格の合格率は柔道整復師学科、はり師、灸師（昼夜間共）昨年より向上した。しかしスポーツ系資格は昨年よりAT・JATI共に低下し課題が残った。		2.9	3	3.0		

項目	関係資料 コンテンツ	点検項目	自己点検	重点目標	H29年度学校関係者評価（平均） 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	H30年度（H29）自己評価 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	H30年度学校関係者評価（平均） 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	学校関係者評価委員よりの御意見	今後の改善方策
4 教育成果	就職資料	4-20 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	平成30年3月卒業生の就職内定率は100%となった。またスポーツ学科では43人の卒業生のうち40人がWスクール(柔整又は鍼灸在籍)のため、就職希望者率は87%となった。 国家資格受験前の卒業試験が認定されない学生が増えており、就職活動と国家試験対策のバランスが課題となっている。また、就職活動が遅くなる傾向が続いている。	安心してちゃんと学べる（資格取得、就職内定） 本校の教育システム・プログラムの強み整備する。	3.0	3	3.0	国家試験合格率の平均結果は各学校での合格率重視で違いが出るのではないでしょうか（卒業者数、受験率、合格者数の推移）。 全員受験、全員合格を目指してください。 鍼灸の求人は昔はばらばらだったものが現在は4月10月に就職セミナーを行っている。また道外の求人の最近では多く、道外へ進む学生の方が「意識」が高く離職率が低かったことは課題です。 退学率について学力不振や目標喪失、病気等理由は様々だが支援体制としての専門スタッフの常駐していることは評価します。 Wスクールの経済的負担は課題ではないかと思います。	安心してちゃんと学べる（資格取得、就職内定） 教職員の教授力・コーチング力の向上を図る。
	資格取得一覧表	4-21 資格取得率の向上が図られているか	本学ではスポーツ系資格、医療国家資格のトリプルライセンスを目指すことも可能であり、一人ひとりの目標設定に合わせた支援と教育を実践している。 資格取得のための正課外の補習、個別対応はもとより、入学時、プレイスメントテストにより、要学習支援学生を早期に発見し早期からのサポートを実施している。 柔道整復師、はり師、きゅう師の国家資格は全て全国平均を上回る結果となった。		2.6	2	2.7		
	事業計画	4-22 退学率の低減が図られているか	教育環境の充実と、学生サポートアンケートによる学生面談や学習状況に応じた支援体制の強化を図るとともに、一人ひとりを大切にした学習支援体制を整備し、開校以来3％台を保った退学率となっている。		3.0	3	3.0		
	卒業生紹介ツール	4-23 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	業界からの信頼を得るにまで卒業生の成長が窺える。開校当初の目標であったJリーグへのトレーナーとして2名の採用となった。		2.4	3	3.0		
5 学生支援	キャリアセンター資料	5-24 就職に関する体制は整備されているか	就職はキャリアセンターと教務が一体となって、就職支援にあたっている。就職活動の時期に合わせて就職対策講座などを開催することにより、就職意識を高める支援体制を整えている。また、必要に応じて模擬面接を実施して、内定率の向上に努めている。 キャリアセンターは各業界に訪問し、求める人材や業界動向などを察知し学校にフィードバックする体制を取っている。	奨学金を利用している学生は、就職条件から返還までを一連の計画のもと、教務ーキャリアセンターー学生サービスセンターとチームを組んでの支援体制をより強化する。	3.0	3	3.0		奨学金を利用している学生の、就職条件から返還までを一連の計画のもと、教務ーキャリアセンターー学生サービスセンターとチームを組んでいる今の支援体制を継続する。
	キャリアサポートハンドブック	5-25 学生相談に関する体制は整備されているか	滋慶ﾄｰﾀﾙｻﾎﾟｰﾄｾﾝﾀｰという学生生活全般における不安や悩みの相談に関する体制が整備されている。 心的な相談は専門の臨床心理士が担当し、学校生活や健康面は教務、学費関係は事務局とチームとして情報を共有して取り組んでいる。		3.0	3	3.0		
	ファイナンシャルアドバイス資料/募集要項	5-26 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	学園全体の在校生51%が日本学生支援機構の奨学金利用者であり公的支援制度への相談体制ができている。 各学科においても年に1回保護者会を実施し情報の告知と案内の徹底を図っている。また、家庭の状況に応じた相談も行っており、学費納入方法についても柔軟に対応している。職業実践給付制度については、再更新申請により学費サポートの継続を図る。		3.0	3	3.0		
	口頭説明	5-27 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	健康診断をはじめとして学校保健法に規定するコンプライアンスは遵守しており、特に医療法人慶心会による健康管理体制により再検査が実施されている。また、附属整骨院や鍼灸院などの活用も整えている。		3.0	3	3.0		
	口頭説明	5-28 課外活動に対する支援体制は整備されているか	スポーツ部活動をスポーツのコーチング、トレーニングを考える場としている。 その環境下で、バスケットボール部、テニス部は全国大会に連続初出場を果たした。 また、スポーツ部活動を、トレーナーの実習現場としても活用し、実践力を強化している。		3.0	3	3.0		
	学生寮紹介パンフ	5-29 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	学園の関連企業が学生寮を運営しており、寮と学校の連携活動により一人ぐらしの学生の生活支援と学習環境を提供する体制を構築している。		3.0	3	3.0		
	口頭説明	5-30 保護者と適切に連携しているか	入学前、入学式、在籍中、卒業式時の保護者会の開催は、学校として重要な学生支援のプログラムと考え年に数回実施している。また学生の様々な相談や問題解決に応じ随時保護者と連携している。		3.0	3	3.0		
	HP	5-31 卒業生への支援体制はあるか	学校全体としての同窓会を組織しており、各学科において卒業生を中心に定期的に勉強会の実施をしている。また、再就職の支援体制を築き、HPで求人を公開している。		3.0	3	3.0		

項目	関係資料コンテンツ	点検項目	自己点検	重点目標	H29年度学校関係者評価（平均） 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	H30年度（H29）自己評価 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	H30年度学校関係者評価（平均） 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	学校関係者評価委員よりの御意見	今後の改善方策
6 教育環境	口頭説明	6-32 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	各教室の設置型プロジェクター、又はPC等の教育用機器の設置や整備は、必要に応じて購入、整備を行っている。	姉妹校（東京スポーツ・レクリエーション専門学校、東京メディカル・スポーツ専門学校とチーム実習、及び、海外研修プログラムの開発をする。	2.7	3	3.0	様々なプロスポーツで活躍できることを期待しています。 （海外研修における）タイ式古式マッサージライセンスの取得は学生に対する説明と取り扱いには注意が必要と思われます。 フランクフルト等姉妹校合同での海外研修企画を持っている点は評価します。 今後共ノルディーア北海道との連携が、学生の皆さまに、お役に立てるよう努力したい。	現実習先、海外研修先を学園グループ全体として共有出来るようにする（滋慶学園グループスポーツ科学教育分科会の活用）。
	口頭説明	6-33 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	道内スポーツチーム、スポーツ企業との連携を強化した教育プログラムを構築を通じて、トレーナー教育の実践の場を創った。 道内チームに対して、アスレティックトレーナー実習も、充実を図っている。新カリキュラムにおける柔道整復師、鍼灸師の臨床実習先の確保は計画的に行う。 企業との連携した研究も実施、各学会での発表にも力を入れることが出来た。 海外研修はタイ国の研修に10名参加。タイ式古式マッサージライセンスの取得に努めた。		2.3	2	2.3		
	防災訓練資料	6-34 防災に対する体制は整備されているか	防災、火災訓練を実施し避難手順や方法を指示し、毎年５月に実施している。 また学生、教職員、講師へ・防災訓練の映像化（DVD）等も実施されており、防災の意識を高めている。またAEDの全校舎設置が出来ており、定期的な救急時における知識の習得と意識付け研修も行っている。		3.0	3	3.0		
7 学生の募集と受け入れ	募集要項	7-35 学生募集活動は、適正に行われているか	学生募集活動は、専修各連の定める募集基準に則り、AOエントリーは6月から、出願は8月からその他の受験方法による出願は10月から受け付けている。募集要項に関しては、入試制度、奨学金制度、学費に関して受験生にとってわかりやすい掲載方法になっている。	スポーツ業界、顧客ニーズに合わせた学科開発を常に行う。	3.0	3	3.0	学校がどんな学習をするのかが学生に知られていません。まだまだ、学校の広報力不足であると思われます。 WebでのAOエントリーの申し込みの新設や、ツイッター等のSNSの取り組みにも力を入れているとの報告を受け大変凄いと感じました。	高等学校との関係を強化（部活支援、出張授業）し、本校の教育をより理解、共感して頂ける機会を多く創る。
	入学案内/募集要項	7-36 学生募集において教育成果は正確に伝えられているか	メディスポNEWSを4回発刊し、就職実績、合格実績、サークル情報など、様々情報を受験生に伝えることが出来た。 ただし、各学科入学定員充足率には課題を残す。		2.4	3	2.8		
	学則	7-37 入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行われているか	学則を基にし、募集要項で明記した入学選考方法通り選考をしており、入学選考委員会を設け入学試験の判定会を適正かつ公平な基準を元に実施している。		2.9	3	3.0		
	募集要項	7-38 学納金は妥当なものとなっているか	学納金は適正かつ妥当なものと考えており、その納付金額、方法に関する情報も適正に行っている。		3.0	3	3.0		
8.財務	財務資料	8-39 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	キャッシュフローの形態を重視し、収支と支出のバランスはとれており、賃借対照表の翌年度繰越収入超過金はない。 設備投資も計画的に行われており負債における問題はない。	継続的に計画的な施設の補修および改修を進めていく。	3.0	3	3.0	HP上での公開確認と説明にて納得しました。	スポーツ×異分野教育が出来る設備の準備を開始する。
		8-40 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	学校の財務体制を管理し、健全な学校運営ができるように予算・収支計画は有効かつ妥当である。 予算編成の方法については短期的と中長期的に行い、学校、学園本部、理事会・評議員会と複数の目でチェックするためにより現実に即した予算編成になっているものと考える。		3.0	3	3.0		
		8-41 財務について会計監査が適正に行われているか	理事会においての内容精査し、監事による監査と外部の監査法人である公認会計士の監査を行っている。		3.0	3	3.0		
		8-42 財務情報公開の体制整備はできているか	「財務情報公開規程」を作成し財務情報の公開にあたって必要最低限の項目を定め公開している。具体的な事項は「情報公開マニュアル」を作成し「財務情報公開規程」により管理、運営を行っている。		3.0	3	3.0		
9.法令等の遵守	組織図	9-43 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	法令や設置基準の変更等に伴う申請手続き等を迅速に対応できる体制づくりを行っている。教員間での法令・基準の遵守に対する教育、又は研修を継続的に実施している。 また、監事による毎年の監査により、コンプライアンスの実施状況についてチェックしている。	制度、法規の変更に伴い、学生により良い教育環境を提供出来る学校運営をする。	3.0	3	3.0		制度、法規に関する情報収集力強化する。
	ITリテラシー資料	9-44 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	学生、保護者、企業、講師、入学希望者についての個人情報保護について、規定に則り運用を行っている。又、スキル向上のための取り組みとしてITリテラシー資格の取得や研修会を実施している。		3.0	3	3.0		
	本会資料	9-45 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	私立専門学校等学校評価検討委員会の基準を元に、平成26年から、自己点検・自己評価ついての方針、実施を開始し、委員会の形成と外部評価を実施している。 学校関係者評価、並びに教育課程編成委員会での意見を充分に反映し、新学校種への取り組みと今後の高等教育機関の制度変更に関しての準備を行っている。		3.0	3	3.0		
	HP	9-46 自己点検・自己評価結果を公開しているか	毎年自己点検・自己評価を実施し、HPによる公開は既に実施している。 自己点検自己評価結果をもとに重点課題について学校関係者評価員と学校づくりの検討を行い更なる評価の向上に努めている。		3.0	3	3.0		

項目	関係資料 コンテンツ	点検項目	自己点検	重点目標	H29年度学校 関係者評価 （平均） 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	H30年度（H29） 自己評価 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	H30年度学校 関係者評価 （平均） 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	学校関係者評価委員よりの御意見	今後の改善方策
10.社会貢献	スポーツクラブ パンフ	10-47 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	本学園が企画・運営する総合型地域スポーツクラブでは250名を超える会員にサッカー・陸上・エアロダンスなど、多種目のプログラムを用意している。約30名の在校生・卒業生でクラブ運営のサポートをし、スポーツ振興に寄与している。	地域のボランティアに積極的に参加し、【提案力】【企画力】【プレゼンテーション力】を向上させ、地域とともに成長していく学生教育と、地域に貢献できる人材育成とをしていく。	3.0	3	3.0	ノルディーア北海道も社会貢献活動をもっと行う必要が有るため何か協調できることがないか内部での検討も図りたい。	恵庭市との地域包括連携からヒントを得た内容を、学校教育に活かし、地域課題を解決する力を身につけることを、社会貢献に結びつける。
	口頭説明	10-48 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	スポーツを通じた様々なボランティアに参加することで、在学時より地域の方々と直接ふれ合うことができ、スポーツ指導やマネジメント力を成長させる機会となっている。		3.0	3	3.0		
11　国際交流	口頭説明	11-49 グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか	海外研修の希望者が10名で実施した。今後も海外情勢を鑑みながら実施を検討する。 姉妹校の北海道ハイテクノロジー専門学校の日本語学科とのスポーツ交流や、海外でのトレーナー活動経験のある講師からの情報提供は開催出来ている。	昨今の国際情勢の変化の対応や研修費用など、学生が安心で安全に参加出来る交流方法を検討する。	2.1	2	2.5	外国へ行かずとも学習できる環境づくりも必要なのではないでしょうか・・・。	海外で活躍しているトレーナー陣から特別講義を増やすことにまずは全力を注ぐ（そのことで、国際的視野を持つことの動機づけをする）。